

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 月 3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (海洋の制度) Society and History (Maritime Institution)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 片岡千賀之 / Eメールアドレス: kataoka@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 水産学部海洋社会科学研究室 オフィスマワー: 月曜・火曜の午後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: この講義では、海洋思想、海洋の利用と開発、海洋制度の歴史を概観し、海の憲法を呼ばれている国連海洋法条約の内容を解説する。また、日本の海洋制度についてもふれる。海洋をめぐる国際的な対立と合理的な利用を解説することによって国際社会に対する理解を深める。 授業方法: 講義形式。教科書は用いないが、授業計画にそって毎回、プリント資料を配付する。期間中、課題レポートを課す。課題レポートを作成するうえで、参考となるように、最初の講義時間に参考文献を紹介する。 授業到達目標: 海洋の利用と開発、海洋制度に関する基礎的な知識を得る、それによってマスコミで報じられる海洋問題のトピックスが理解できるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 海洋思想、海洋の利用と開発、海洋制度の歴史についての概要、国連海洋法条約の成立過程と構成、国連海洋法条約の基本概念である領海、国際海峡、島と岩、大陸棚、排他的経済水域、公海、深海底、海洋環境の保全、船舶の航行、紛争解決制度を、海洋利用の実態をふまえて、概説する。また、日本の海洋制度の歴史、日本の領海、大陸棚、排他的経済水域についても概説する。 第1回 講義の概要、参考文献の紹介、海洋の自由と海洋論争 第2回 海洋の分割と国連海洋法条約の成立過程 第3回 国連海洋法条約の構成と意義 第4回 領海、接続水域 第5回 国際海峡、群島水域、島の制度 第6回 大陸棚の開発と制度 第7回 排他的経済制度(200カイリ制度) 第8回 公海 第9回 深海底制度 第10回 海洋環境の保護と保全 第11回 海洋制度と船舶の運航 第12回 海洋紛争の解決制度 第13回 日本の領海、大陸棚、排他的経済水域 第14回 同 第15回 定期試験			
キーワード	海洋制度、国連海洋法条約、海洋紛争、海洋利用と開発		
教科書・教材・参考書	授業の最初で紹介する。島田征夫・林司宣編「海洋法テキストブック」(有信堂、2005年)、水上千之「海洋法 展開と現在」(有信堂、2005年)		
成績評価の方法・基準等	単位取得要件を満たした者に対して、定期試験(70%)、課題レポート(20%)、授業への積極的参加状況(10%)で成績評価をする。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			